

今日、医療現場において「倫理」は不可欠な要素となっています。安全管理業務はもちろんのこと、医療の質向上など病院機能評価をはじめとする医療マネジメントを考える上でも、「倫理」は欠かせない時代となりました。では、医療現場における「倫理」問題というのは、いわゆる「道徳性（モラル）」の問題であるか、というと実はそんなに単純ではない、と言わざるをえません。確かに「共感的姿勢で善意から患者に接する」という医療専門職の「道徳性（モラル）」は重要なことです。しかし、同時にそこには大きな「落とし穴」があることに留意しなくてはなりません。「患者のために高潔なる人格性を高め、献身的・自己犠牲的に努力する」ことのみを過度に強調する「倫理」では、かえって責任感のある医療スタッフほど倫理的問題を自分独りで解決しようと抱え込み、「独善」に陥る傾向性を助長するリスクを高めてしまうという問題があります。医療現場の倫理問題に対処するためには、そうした倫理問題を「個人の悩み」にせず、「複数の医師及び看護師等が連携して対応を決めていくことのできる体制の確立」を組織的に実施すること、すなわち医療スタッフへの倫理的支援体制の確立、いわゆる「臨床倫理サポート」というシステム構築が不可欠なのです。